

令和4年度学校自己評価システムシート（県立岩槻高等学校）

目指す学校像	自主・自律の態度、確かな学力、国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の自己実現を支援する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上・国際感覚の育成 2 進路指導の充実 3 生徒指導の充実と人権教育の推進 4 保護者・地域との連携
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価					年度評価（2月1日現在）		
年度目標					年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 生徒は真面目で落ち着いて学習する雰囲気は定着しているが、主体的に学習に取り組む姿勢に乏しい。朝学習や授業・学校行事に取り組ませている。国際交流部・国際文化科が中心となり国際理解教育を進めている。</p> <p>【課題】 生徒は受動的な取り組み姿勢が強く、家庭学習時間が短い。基礎学力をつけさせ、一人一人の自己実現を支援し、グローバル社会に対応できる能力を身につけた生徒を育成すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習指導要領の実施やICT機器の普及に伴う、教員の授業力向上 ・「主体的・対話的な学び」につながる学習環境の整備 ・グローバルな視点から諸課題の解決ができる生徒を育成する指導 	<ol style="list-style-type: none"> ①Google Workspace for Educationを中心にICT機器を活用した教育活動を全体で推進する。 ②学力向上推進に向け、1年生は新学習指導要領の実施に伴う3観点評価を適切に行う。 ③2, 3年生は主体的な学習意欲の向上(面談・学習リサーチ結果等を活用)を図り、計画的に成績を向上させる(定期考査・小テスト・模試・検定等)。 ④感染症に対応しながら特色ある国際理解教育に関する事業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教員の授業評価と生徒の学習姿勢(アンケート・見学シート等活用)(通年) ②成績優良者数(各学年20%以上)・成績不振者(各学年なし)及び、学びの基礎診断模試等の成績(通年) ③ICT機器の活用状況と教員の操作技術の獲得の状況 ④国際理解教育に関する学校行事の立案及び参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価結果が授業改善に生かされているかを図る具体的方法がない。保護者アンケートでは家庭学習時間は減少傾向がみられる。 ・2学期の成績優良者数(1年21.0%, 2年23.4%, 3年22.7%)、成績不振者数(1年4.9%, 2年10.3%, 3年5.7%) ・Google Classroomの活用は十分なされている。 ・来年度の海外派遣プログラムへの希望者は38名。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、家庭学習時間が減っていることもあり、昨年度に比べ、成績不振者が増え、成績優良者が減っている。 ・二者面談、三者面談を充実させ、計画的なキャリア教育の下、より一層学習意識を高め、確実な学力を身につけさせる必要がある。 ・1人1台端末実施に向けて導入ソフトの実践方法を研修する。 ・ポストコロナを見据え、国際交流事業を再開する。
2	<p>【現状】 進路意識はあるものの、将来を真剣に見据えた進路選択という意識が希薄であり、安易な気持ちで進路先を選ぶ生徒もいる。</p> <p>【課題】 入学時の進路目標の実現を図るための学習の定着が課題である。将来を真剣に見据えた進路選択を行い、進路意識を向上させ、興味・関心・適性に応じた進路実現を目指す生徒を育成すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点に立ち、3年間を見通した計画に基づいた指導の実施 ・自己の進路実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する指導 	<ol style="list-style-type: none"> ①高大接続改革を意識した進路行事(ガイダンス・講演会等)を通じ進路意識を向上させる。 ②スタディサポートを活用し、事前事後の指導を積極的に行う。 ③授業以外(進学補習・模試・各種検定・家庭学習等)の積極的な参加を促す。 ④最新情報(説明会・研修会・クラウドサービス等)を活用し、進路面談等の指導を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路行事の計画的実施(通年)・診断スコア・模試結果等・進路決定率(90%以上) ②学びの基礎診断等の学習データの活用状況 ③進学講習・模擬試験・各種検定等(実施回数・参加者数)及び、家庭学習時間(保護者アンケート分析) ④研修会の回数や二者面談シートの活用状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率は現在約83%(4大145名, 短大24名, 専門72名, 就職9名, その他50名)である。 ・補習参加者数は1, 2年生は例年通りだが、3年生は減少、その分、小論文や面接対策に多くの生徒が集まった。 ・共通テスト受験希望者は36名と昨年度の25名から増加した。 ・2年生は2月の模試受験希望者が100名を超えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎診断ツールの学習到達ゾーン結果を有効活用して学力向上の見える化を図り、Dゾーンの生徒の学力を向上させる。 ・評定平均値を上げるためだけでなく、模試を受けることのメリットを理解させうえて、模試受験を積極的に促す。 ・共通テスト、一般入試受験者に対する学習環境を整える。
3	<p>【現状】 全基本的な生活習慣の確立はわりあいになされている。SNSの利用方法に一部問題のある生徒がいる。また、交通マナー等で外部から指摘を受けている。</p> <p>【課題】 交通マナーの向上を図る。また悩みを抱える生徒への対応を充実させ、SNSに関するマナーを高めるなど、人権尊重の精神を涵養する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、時間厳守、交通マナー等に責任ある意識を持たせ、自律を育成する指導 ・多文化共生社会における人権尊重の精神、他者への思いやりを育成する指導 	<ol style="list-style-type: none"> ①全教員の共通理解のもと、学校全体の指導を行う。 ②計画的指導(登下校・交通安全)を通じ、自転車の登下校のマナーを向上させ、交通事故を防止する。 ③SCを活用し、悩みを抱える生徒への教育相談・生徒指導をきめ細かく実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒自ら校則の意味を理解し、自主的に守ることができているか(通年) ②登下校マナーに関する苦情(通年)・交通安全指導の計画的実施(各学期) ③特別生徒指導案件の減少(特にSNSに関するトラブル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時のマナー等で地元住民から数件苦情を受けた。 ・学校管理下外も含め自転車と車の接触事故が3件あった。 ・SNS不正利用に関わる事例が3件し、2件は同一生徒であった。いじめ等に発展するような内容はなかった。 ・2学期からSCを有効活用できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時からスマホ利用の注意点、特にSNSの使用法について注意喚起を行う。 ・スケアードストレイト技法による交通安全指導は効果的であったと思われるので継続する。 ・自転車乗車時のヘルメット着用について生徒、保護者に強く呼びかける。 ・遅刻指導、整容指導は継続する。
4	<p>【現状】 コロナ禍で各種の交流事業が緩和されつつあり、少人数での地域行事等への参加など、可能な範囲で地域交流を行う予定である。</p> <p>【課題】 学校HPの中で更新を積極的に行う部署が限定的である。感染症や地域の状況を踏まえ、積極的に地域交流を進める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信、地域交流を通じて生徒、保護者、地域住民との相互理解を深める。 ・外部資源を活用して生徒の学びを豊かにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①交流が緩和制限される中、学校HP・一斉送信メールを中心に、効果的かつ積極的な情報発信を行う。 ②高大連携や、PTA組織、地域との連携により教育活動の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校HPの情報発信の更新頻度、新たな情報提供手段の開発(通年) ②地域・保護者等と連携した教育活動の実施回数(通年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPは現時点で546件の記事を載せ、毎日更新した。 ・小高交流は3校で46名の生徒が参加し、学校説明会のはのべ4回1600人以上参加者がいた。 ・PTAでは広報誌を2回発行し、大学見学会も実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新が一部の教員に限られているのでより多くの教員がかかわるようにする。 ・教職員全員で生徒募集の取組を継続的に続けていく必要がある。 ・引き続き、地元小中との交流や地元のイベントへの参加を進める。

学校関係者評価
実施日 令和5年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は家庭学習時間の増加に重点を置いたらどうか。宿題や課題を増やす、普段の学習状況に評価のウェイトを置くなど家庭学習をしなくてはいけない状況を作る必要があるのではないかと。 ・ICT機器の活用が学力向上に役立つものにしてほしい。プロジェクターに投影するだけで依然として一斉授業の形式では意味がないのでは。 ・成績優良者の割合は評価指標に達している。全国レベルと比較しても十分通じるレベルの学力の定着を望む。 ・「岩槻イングリッシュ・キャンプ」の継続を検討していただきたい。 ・朝学習を生徒が主体的、自主的に取り組めるものにできないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導がきめ細かく充実しており、回数を経て成長している。岩槻高校の強みの一つになる。 ・進路実現は早期の目標設定がポイントとなる。将来就きたい職業に関する具体的な情報を与えることにより進路意識は高まるはずである。 ・単なる進学対策にならないように目的意識を高める必要がある。指定校推薦制度はありがたいが、あまり受験勉強に取り組まず進学できてしまう。大学進学希望者には定期的に模擬試験を受けさせて学力向上を目指して欲しい。 ・高大のキャリア教育の連携が取れると良い。 ・スタディサポートは学習習慣の振り返りができる。面接等で有効活用してもらいたい。 ・公務員対策の充実も望みたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのスマホの利用を禁止されているが、使用している生徒もいて徹底されていないのでは。制限を緩和して欲しいとの声もある。 ・ヘルメット着用を生徒会主導で率先して実行できないか。他校をリードしてもらいたい。自転車通学希望者には任意保険の加入とヘルメット使用を申請時に同意させる方法を検討してはどうか。 ・犯罪や反社会的行動につながるSNSに関わる教育は重要なので効果的な教育を施したい。 ・評価項目にある人権教育について触れられていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率をみると広報活動は成功したと言える。生徒会の説明会の協力と中学生への発信が成功したのではないかと。部活動は岩槻高校の魅力をアピールでき、志願者が増えると思う。 ・地元自治会との協力関係を具体的に構築していきたい。 ・達成度が高いので次年度は次のステップに移行しても良い。